



# アワーミュージアム

第30号 2006年2月28日発行

## 歴史の窓を開こう！

### —テレビドラマ・まんがと歴史学—

すとう しげき  
須藤 茂樹 (特別寄稿)

現在、NHK大河ドラマで司馬遼太郎原作のしばりょうたろう「功名が辻」が放映中である。この作品は、豊臣秀吉の家臣山内一豊の妻千代を主軸に、一豊が乱世を生き抜き土佐一国の大名に昇進する戦国出世譚をダイナミックに描いたものである。

さて、このドラマのなかで蜂須賀小六が川並衆のひとりとして活躍している。これは脚本が「武功夜話」という史料に依拠していることによると考えられる。蜂須賀小六といえば、矢作川(愛知県岡崎市)に架かる矢作橋の上での日吉丸(豊臣秀吉の幼名)と野武士の頭領蜂須賀小六との劇的な出会いを思い起こされる方が多いことだろう。鮮やかな錦絵や子供の頃に読んだ子供向けの伝記に登場する有名なエピソードである。しかし、この逸話は江戸時代後半の寛政11年(1799)に成立した武内確齋筆の『絵本太閤記』にはじめて登場する話であって、それ以前の文献には見えない。さらにいえば、この当時は川には橋が架かっていなかったのである。よって、秀吉人気の高まりのなかで、確齋が創作したものと考えられる。

ところで、今回の大河ドラマで小六を演じているのは誰かご存知だろうか。プロレスラー、俳優として活躍する高山善廣さんである。そこで以前大河ドラマを想起していただきたい。竹中直人さんが秀吉を好演したことで話題となった「秀

吉」では今は国会議員をされているプロレスラー大仁田厚さんであり、佐久間良子さんが北政所を、西田敏行さんが秀吉を演じた「おんな太閤記」では世界チャンピオンとして鳴らしたボクサーのガッツ石松さんだ。いずれも格闘家が小六を演じているのである。儀式の際に、ほかの家臣たちはみな武士の正装である直垂を着ているのに、小六だけが鎧を身につけているという場面が多かった。このようなありえない光景が描かれるのは、私たちの小六イメージの反映といえるのである。近年の大河ドラマは、時代考証に加え、風俗考証、建築考証などそれぞれの専門分野の研究者がドラマ制作に関わっており、ストーリーは別として衣食住についてはかなり安心して見られるようになった。去年の源義経が着用していた鎧は、大山祇神社(愛媛県今治市)に所蔵されている伝源義経奉納の国宝「赤糸威大鎧」を模している。

民放で放送されている「水戸黄門」や「大岡越前」、「遠山の金さん」に時代考証を期待する視聴者はほとんどいないであろう。それは、みなさんが時代劇に仮託したホームドラマと認識しているからであろう。ところが、大河ドラマに対しては見る方によってはイコール歴史と考えている方もおられるだろう。私も小学校の高学年であったらうか、司馬遼太郎作の「国盗り物語」を見て戦国時代に興味を持ったものであり、案外大河ドラマや歴史まんがからこの世界に入ったという研究者は多いのである。去年の大河ドラマで、北条政子の発言力が大きく頼朝を左右していたが本当だろうかという質問をいただいた。興味深かったの

は、ドラマのなかで阿波水軍の頭領たぐち しげよし田口重能のかいじゅう懐柔が大きなポイントとなっていたことである。

また、私が子供の頃に読んだ歴史まんがは大学の先生が監修かんしゅうしていたが、全巻一人の監修者という場合がほとんどであった。最近のまんがは、子供向けあなどといっても悔れない。時代毎に監修者を変えたり、一巻ごとにその分野の専門家が監修したり、さらには別に風俗や建物の専門家をいれているものまであり、学問の成果が盛り込まれている場合も多い。東北大学のたかはしとみお高橋富雄名誉教授が監修している「源義経」では、奥州藤原氏おうしゅうの役割がクローズアップさせており、また阿波水軍の裏切りが義経の勝利に大きな位置を占めていることを取り上げたものもある。

ところで、かつて武田信玄の研究をしていた私にとって、この正月は民放で井上靖原作の「風林火山」が放送されたことはうれしかった。しかし、がっかりしてしまった。ひとつだけ挙げれば、「風林火山」の旗が乱立していたのにびっくりした。孫子の旗とも称される「風林火山」の旗は、信玄そんしの学問の師、快川紹喜かいせんじょうき こくし国師せん きごうの撰・揮毫になると伝えられるもので、常に信玄の側近くにある一種の大將旗である。雑兵が持つものではないのである。余談であるが、快川国師えりんじが恵林寺の山門で「心頭を滅却すれば火もまた自ずから涼し」と唱しんとう めっさやくえて織田の兵火おのに殉じたことはよく知られているが、徳島市の瑞巖寺ずいがんじの開山一鰐かいざんいちがくはその高弟であった。来年の大河ドラマが同じ「風林火山」と知り、時代考証を今から楽しみにしているところである。

とりとめもなく、普段感じることを記してみたが、博物館の展示や講演、講座などで得た知識をもってドラマやまんが、小説を読み解いてみることをお勧めしたい。歴史の窓を開けるヒントが得られることだろう。

## 絵図ウオーク「徳島城址を歩く」

いしはら すすむ  
石原 侑（友の会会員）

28号のために書いたものではない原稿が、28号に掲載されたので、タイトルなどを不審に思われたらう。

2004年、古い絵図と現状を見比べて歩く行事の希望があり、絵図のコピーを持って徳島城址を歩いた行事が実施された（5月16日）。その日は午後にも行事があって、城山は次回にということになって、2005年11月13日に第2回が行われた。絵図を見るだけ、歩くだけでは分からないことを補足説明するのがこの原稿の目的である。

### 徳島城の所在地は「徳島町城内(じょうない)」

昭和16年9月2日の徳島県告知第601号には、地名にふりがなが付いていて明確なのだが、なかには何故かまちがった地名が書かれている場合もある。

「徳島町城内」は城跡だけでなく、周囲の寺島川・助任川を埋め立てたところも含んでいる。だから徳島駅のホームやレールのところ、市中央公民館から寺島川公園も「徳島城城内」である。寺島川公園の南の東警察署は「中洲町」で、新町川の埋め立て地らしい。なお、徳島城の新蔵の跡にある裁判所は「徳島町1丁目」で、裁判所の東と南の新蔵の跡以外が「新蔵町」である。

### 徳島城は粗末で小さい城であった

観光案内に「蜂須賀氏25万石の城」とあるのを見ると恥ずかしくなる。とても25万石の大大名の居城とは言えない規模である。江戸時代は城の規模を変えることは許されなかったのも、最初の石高を知らなければ理解できない訳である。

ほとんど四国全体を支配するまでになっていた長曾我部元親を降伏させた豊臣秀吉は、元親に土佐一国を与えたが、警戒すべき相手に変わりなかった。土佐かみがたと上方との間の阿波に有力な武将を

## 友の会活動の紹介



## 絵図ウォークに参加して

しま みよこ  
○島 美代子（友の会会員）

この度の徳島城跡絵図ウォークに参加させていただきました。天候にも恵まれ有意義な一日でした。石原先生のおだやかな語り口に頷くことしきりで、改めて築城の頃に思いを馳せながらお聞きしておりました。

いままで城跡には何かの催し物や桜見物ぐらいしか参りませんでした。今日、ひとつずつ勉強させていただき、歳月の重さを強く感じました。随行の先生方にも御礼申し上げます。ありがとうございました。

かわかみ さえこ  
○川上 左恵子（友の会会員）

先日は徳島城跡の絵図ウォークに参加させていただきました。徳島で生まれて徳島城のことを何も知らないのは寂しいと思い、良い機会に恵まれたので参加しました。その時代とともに城付近の状況も、川や道路も変遷していったことを知ることができました。

冬晴れで絵図ウォークに最適で、先生をはじめ参加された方々が優しくお教えてくださいました。一刻があつという間に過ぎ、楽しく勉強ができ、本当にありがとうございました。また参加したいと思っています。



絵図ウォーク（徳島中央公園）

早急に置くことが必要であり、そのため蜂須賀家政は阿波に入国すると早速渭津（徳島）に城を築いた。一天正13年（1585）一急いで築かれたので粗末な構えの城であった。

蜂須賀家政は入国時、阿波国のうち置塩領・兵橋領を除く17万6千石ほどの領主だったらしい。関ヶ原の戦いのとき領土を返上したが、戦いの後家政の子蜂須賀至鎮に阿波一国（18万6千石）が与えられて、その後大坂夏の陣の功績で淡路一国（7万1千石）も与えられて、元和元年（1615）25万7千石の大名となった。

蜂須賀氏が居城とし、戦国時代から明治維新後まで変わらなかったことは石高の増減もなかったことと共に全国的に珍しい。この点が「徳島城」の大きな特色である。幕府の城についての規制は非常に厳しかったので、江戸時代を通じて徳島城はほとんど変わっていないと考えられる。

滋賀県の彦根城には山上に小さいおもちゃのような天守がある。城主の井伊氏は35万石（桜田門外の変で10万石削られて25万石になる）だが最初18万石の時代の城である。全国の有名な城は、たいてい近世に入ってゆっくり造られているので構えも立派である。

### 私たちの見ている現在の城は貝がらである

いつも言っていることだが、私たちが見ている城は、貝であれば貝がらであって、貝の体は失われている。体にあたるのは城の機能を果していた多くの建物で明治になると取り壊されて、今日見るように城内に広い空き地ができた。

「徳島城」では明治末に公園にするために「貝がら」も残さないように破壊されている。公園は日露戦争の戦勝記念として開設されたから、百年になる。今は「徳島中央公園」と呼ばれているが、国指定史跡となった機会に「徳島城公園」と呼ぶことにしてはどうだろうか。

## 博物館紹介 29



## 美馬郷土博物館

いしお かずひと  
石尾 和仁 (友の会会員)

みま がんしょうじ  
美馬市寺町に所在する願勝寺の境内に美馬郷土博物館があります。昭和32年に美馬町立郷土博物館として開館した同館では、「段の塚穴」古墳出土の須恵器すえき こおごとはいじや郡里廃寺出土の瓦類をはじめとして、美馬町内から出土した考古資料を中心に、郡里村むねつげちょう けんちちよう棟付帳・検地帳などの古文書類なども展示されています。

「段の塚穴」古墳は美馬町坊僧ほうそうの段にあつて、国指定史跡になっています。約30mを隔てて東西に2つの塚があり、東側を太鼓塚たいこづか、西側を棚塚たなづかとよんでいます。ここから出土した提瓶さげべや高坏たかつきなどの須恵器類が当館に所蔵されています。

また、郡里廃寺跡も昭和51年(1976)に国指定史跡になっており、当館の北側に寺域が広がっていたことが昭和42・43年の発掘調査によって確かめられました。その調査の結果、塔・金堂・中門・南大門跡が検出され、東西約94m・南北約120mの寺域をもつ法起寺式の伽藍配置をした白鳳期創建りゅうこうじの寺院「立光寺」跡であったことが確認されています。現在、美馬市教育委員会が中心になって史跡整備がスタートしたところです。

その他、考古資料としては、鍋倉谷川の段丘上なべくらだにがわに所在する滝の宮経塚たき みやきょうづかから出土した銅鏡ごうすや合子あご・小刀まなべづか、さらに真鍋塚まなべづか・鍵掛塚かにかげづかから出土した須恵器むねしげかまあとや宗重窠跡むねしげかまあとから出土した土師器はじき、また美馬町小長谷おぼせに所在した板碑なども展示されています。

なお、願勝寺境内には当博物館のほか、南北朝期の作庭とされ、県の名勝にも指定されている池泉式枯山水ちせんしき かれさんすいの庭園もあり、周囲にある安楽寺めいさつなどの名刹かいわいとあわせて寺町界隈の散策も楽しめるものと思います。

ところで、みなさんもお承知の通り、徳島県立

博物館では段の塚穴太鼓塚の復元模型が展示してあり、古墳内部の構造の理解に参考になります。また、郡里廃寺のパネル展示もあります。もう一度じっくり徳島県立博物館の展示も見てみてはいかがでしょうか。

## 美馬郷土博物館

- ◆開館時間：午前8時～午後5時
- ◆休館日：年中無休
- ◆入館料：無料
- ◆交通案内：JR 貞光駅から美馬観光バス石仏行き寺町下車、徒歩約3分  
徳島自動車道美馬ICから車で約5分
- ◆所在地：美馬市美馬町字願勝寺8  
TEL (0883) 63-2118



願勝寺の境内の様子-1



願勝寺の境内の様子-2

## 友の会行事報告



## 一泊研修旅行を終えて

まつか きょうこ  
○松家 京子（友の会会員）

先日、万葉歌碑と古墳を巡る一泊研修に参加しました。私の一番印象深かった場所は大型円筒埴輪の復元作品をはじめ、メスリ山古墳の副葬品の展示されていた博物館です。1700年前と同じ古代製作技法を推測しながら、学生が土づくりからコマだしまで3カ月半もかかって取り組んだということに胸が熱くなりました。

メスリ山古墳の周りに、この円筒埴輪がぎっしりと並んでいたらしいのですから埋葬された人の偉大さが想像されます。今まで古墳について知識も関心もなかった私ですが、今回大和の古墳群に触れさせていただき興味を持つことができました。

何かひとつでも俳句が詠めるといいなあと思ってこの一泊研修に参加させてもらったのですが、同室になった友の会メンバーとの交流も楽しかったし、日本の歴史の重みを感じることができ、とても有意義な2日間となりました。ありがとうございました。

なかじま よしお  
○中島 世志男（友の会会員）

私にとって初めての一泊研修旅行は、箸墓古墳からでした。三輪そうめん山本から見る巨大な雄姿に、当時これほどの事業を生み出す経済力と技術力の存在にまず驚いた。それに続く山辺の道を歩いてみて、ほぼ並行して存在する古墳群を眺めてその感を深めた。決定的であったのは、二日目の秋季特別展「巨大埴輪とイワレの王墓」の会場で、百本に余る鉄剣と王墓の頂上部をぎっしりカバーする巨大埴輪の数量と、そのバラエティの豊富さを見るに及んで、この思いは頂点に達した。

今でいえばハイテク技術を持った職人やそれを支える経済文化システムが存在していたのか、ロマンとしか言い様のない豊かさが何でこの桜井の地にあったのかと。

日向の油津を船出したイワレヒコ命。東進して直接大和にはいることができなくて、伊勢の神の援けを得て東よりこの地に来て支配したというが、とにかくその経済力はだれが支えたのか、ロマンは広がるばかりであった。楽しくて豊かな古代の世界に浸ることのできたよい旅をありがとうございました。

たかだ こ  
○高田 スミ子（友の会会員）

山辺の道一泊研修とても感激しました。まず、美しいカラーの表紙、写真入りの解説、古墳の図解と大変分かり易い資料でした。

現地に行つての昼食も三輪のそうめん汁、柿の葉寿司など名物をおいしく頂き満足、また万葉歌碑、古墳巡りは秋雨の中となりましたが苦にはならず、感動の連続でたくさんの発見もありました。

宿泊のホテルでの夕食は会員同士和気あいあいの交流ができ、とても楽しい旅となりました。付き添い、ご指導くださいました先生方、スタッフの皆様方大変お世話になりました。次回も楽しみにしています。

ぼんどう なおみち  
○坂東 直道（友の会会員）

出発の朝、資料「山辺の道」をいただいた瞬間、今年の旅行も魅力たっぷりだと予感、期待に胸を膨らませました。

現在、田中省造先生を講師として万葉集を学んでいます。海拓榴市より大神神社にかけて、大和三山等を眺め、古代人に成りきった気分で歌碑を読み、現地探訪の意義を実感しました。

箸墓古墳の北面（池側）はよく見えますが、南面を実地に歩き、現状確認できたことに大満足しています。

かしはら  
 檀原考古学研究所附属博物館では、メスリ山古墳の概要と日本最大級の円筒埴輪を見学しました。古代人の陶工技術の素晴らしさや埋葬者の権力の偉大さに驚きました。

最も興味を持って見学したのが山田寺跡でした。5年前の飛鳥巡りに参加し、飛鳥博物館で発掘された山田寺の回廊復元を見て、現地をぜひ見たいと思っていました。早朝案内して下さるとのことで期待していましたが、雨が激しく中止するとのことでした。フロントで尋ねると15分もあれば帰ってこれるとのことでした。5年間の積もる思いにいたたまれず、単独で山田寺跡に行き、説明板で概要を把握しました。飛鳥は見所が多く何度訪れてもいい地だと思いました。お世話くださった先生方に感謝いたしております。

まつもと おさむ  
 ○松本 修（友の会会員）

研修に参加して大変よかった。今回のように観光客の少ないコースであることに興味を持っていた。山辺の道では大杉さんの解説があり、よく理解できた。歩きのコースでは高島さんの解説で古墳の名前等知らないことをたくさん教わった。先日もテレビのニュースで最古の古墳のニュースがあり、行った近くのものであることに興味を持った。檀原考古博物館の説明も大変よくわかった。万葉集の植物の本も大変参考になり、有意義に使用したいと思っている。

ツアー行程もしっかり計画しており有意義な二日間の旅であった。来年もぜひ参加したい。ツアーを計画してくれた友の会の人たちに対して感謝の気持ちでいっぱいです。

ほりべ  
 ○堀部 るみ子（友の会会員）

10月22日、23日の山辺の道を歩く研修旅行は、小雨にも関わらず十分堪能することができました。今年には奈良に縁が深く、当麻寺に3回、二上山博物館、石光寺、けはや塚、相撲資料館、おふさ



山辺の道展望台にて

観音に行き、その都度始めたばかりの俳句や短歌を詠みました。

山辺の道でたわわに実っていた大和柿のオレンジ色が印象深く、何度もぎ取って口にしたいと思ったことか。山辺の小雨の中で見た、あの鈴なりの柿のいかにも重たげな風情が忘れられません。古墳を眺めるだけでなく、直接登ってみるという体験もありました。箸墓やホケノ山古墳の新聞記事を見て、古代の人が権力の象徴であろう古墳を最先端の技術と豊富な財力で造るに至った経緯や思い入れに、心を巡らしました。

早朝訪れた山田寺跡では感慨ひとしおでした。山深い地に、当時の国際文化（仏教）は人々にどのように受容されていったのでしょうか？

万葉の歌碑、仏像、円筒埴輪、石鏃や玉、土師器や須恵器などの出土品の数々。本当に有意義で充実した2日間でした。ありがとうございました。

ただ しげとし かずみ  
 ○多田 重利・一三（友の会会員）

私たちは、一泊研修に参加したのは初めてでしたが、誠に充実した二日間を過ごすことができました。

卑弥呼の墓ではないかといわれている箸墓古墳の優美な姿を目の当たりにしたときは感動しました。

「万葉のロマン・山辺の道」は、歌詞とマッチした場所にちりばめられた古事記や万葉集の歌碑、古代政権の中枢部を感じさせる古墳群や神社

仏閣のたたずまいにも感動を禁じ得ませんでした。また、博物館でも見聞を広めることができました。ありがとうございました。

とよしま しょうじ  
○豊島 祥司（友の会会員）

第一日目は小雨にふられ残念。しかし少しの間隔で雨が降ったり止んだりして何とか予定がこなせて無事に宿舎に着くことができ、よかったと思いました。

先ず最初に気になったのは、山辺の道がウネリクネリして、しかも道幅が狭く、狭いところでは1mあまりの幅の道でした。当時の人々は数人から数十人の集団で通行していたのかと思うと、袖擦りあうような状況ではずいぶんと不便であったらうと思いました。（我々が車で往来する道路からは考えられないことですが・・・）

次に万葉の歌碑が所々に点々と建立されており、その歌詞が当時の人々のものの考え方、心情、生活、風景等を歌っており、深い感銘を受けました。

第二日目は天気は何とか持ち直して予定のコース通りで、由緒ある土地や建造物等を見学することができたので、大いに参考となり勉強にもなりました。

さなか ふみこ  
○佐中 倭文子（友の会会員）

仏教伝来の地奈良に来て、まず高島学芸員の説明を聞く。刈田の向こうの箸墓古墳をカメラで撮る。現在によみがえった大型円筒埴輪、黒塚古墳の三角縁神獸鏡等々。

23日早朝、熱心な高島学芸員と友の会員10数名で山田寺跡へ。千年も地中に眠っていた建築部材のあった回廊跡の場所等の説明を聞きました。金堂跡にも立ってみました。興福寺で初めて見た時、あの山田寺の仏頭の大きさ、美しさは圧巻でした。もう何年前の事かしら。余韻の残る山田寺跡を後にしました。

山辺の 歌碑に降りたる 木の実かな  
倭文子

皆様ありがとうございました。

くわうち たかし  
○桑内 隆（友の会会員）

今回初めて海石榴市を訪れ、「大和政権がなぜ交通の不便な内陸に根拠を置き発展することができたのか？」という長年の疑問に私なりの解答を得ました。

そこに大和川本流（初瀬川）の河港があり、大和政権の外港としての役割を果たしていたことを知りました。何より嬉しい収穫でした。

2日間にわたり、巨大な前方後円墳を「箸墓」や「黒塚」の古墳で体験して実感し、多くの史跡・博物館など解説付きで見学して勉強になりました。ますます古代のロマンにはまりそうです。お世話になりありがとうございました。

ながまち じゅんこ  
○長町 淳子（友の会会員）

いつも行きたいと思いながら欠席ばかりでしたが、今回大杉さんのお誘いで出席させていただき良かったと思います。古墳などあまり興味はなかったのですが、初心者でもよくわかり、だんだんと興味がわいてきました。二日間大和路を散策できて、日本の心の原点を学びました。友の会に入会して良かったとつくづく思いました。

これからも出席するように心がけたいと思います。どうも大変お世話になり、感謝いたしております。



みんなで集合写真

## 事務局からのお知らせ

### あなたの原稿待っています

この会報「アワーミュージアム」にあなたも投稿してみませんか？専門的な文章はちょっとねえとお考えの方も多いかとは思いますが、でも、まずは身近な話題、日頃の活動紹介などお気軽に原稿をお寄せいただきたいと思います。

## 行事スタッフ募集

友の会では行事のチラシの作成や、写真・ビデオ撮影等のスタッフとして協力いただける方を募集しています。

お友達・ファミリーでの参加も大歓迎です。

詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。

## 身近なトリビア

### 二つの「**独立自尊**」の碑

いしはら すずむ  
石原 侑（友の会会員）

写真上は、徳島市万代町の徳島プリンスホテルの前にある「徳島慶應義塾跡」の碑で、下は京都府庁の正門を入れて左にある「京都慶應義塾跡」の碑である。文字は当然福沢諭吉によるものだが、徳島の碑のように「左横書き」に書いたとは思えない。京都の碑のように書いたはずだが、これを「右横書き」というのは誤りで「一行一字の縦書き」である。



No.30

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



February  
2006  
Tokushima  
Prefectural  
Museum

第30号

2006年2月28日 発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197